

課題番号	LS090
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成22年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	イメージング技術を用いた臓器特異的自己免疫疾患の病態解明
研究機関・ 部局・職名	徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授
氏名	石丸 直澄

1. 当該年度の研究目的

自己免疫疾患はすべての臓器を標的としうるが、なぜ特定の臓器が自己の免疫反応の標的になるのかは十分に理解されていない。その答えを見出すためには、二方向からのアプローチが必要である。一つは、免疫細胞がなぜ自分の成分を攻撃する必要があるのかを探ることであり、もう一つは、臓器側の細胞がなぜ自己免疫反応の標的にされなければならないのかを明らかにすることである。これまでに当研究室では、T細胞の教育の場である胸腺を新生児期に摘出することによって、唾液腺・涙腺に限局した自己免疫疾患であるシェーグレン症候群のモデルマウスを確立し、その発症メカニズムの解析を多角的に行ってきた。しかし、なぜ唾液腺・涙腺が標的臓器になる必要があるのかは全く不明のままである。平成22年度は研究期間が短いため、標的臓器決定因子候補の同定に向けた研究の準備及び着手する予定である。研究スタッフの選考、実験使用機器、使用動物の準備、実験器具、消耗品などを早急に準備し、出来るだけ早期に研究プロジェクトが遂行できるようにする予定である。

2. 研究の実施状況

ポスドク研究員の採用を決め、研究実施に向けて準備を行った。疾患モデルの選定、購入、維持管理に着手し、臓器特異的自己免疫疾患における標的臓器決定因子候補の同定に向けた準備を進めた。また、イメージング技術を用いた実験系の構築に向けて、徳島大学バイオイメージングステーションを中心に協力体制の構築を計った。試薬類に関しても本研究に必要なタンパク発現解析用の抗体、培養細胞に用いる試薬、遺伝子発現解析に必要な試薬等の準備を行った。

2月、3月と短い期間であったが、本研究遂行に必要な実験計画および準備を中心に行った。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

雑誌論文 計0件	(掲載済み一査読有り) 計0件 (掲載済み一査読無し) 計0件 (未掲載) 計0件
会議発表 計0件	専門家向け 計0件 一般向け 計0件
図書 計0件	
産業財産権 出願・取得状 況 計0件	(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件
Webページ (URL)	準備中
国民との科 学・技術対話 の実施状況	準備中
新聞・一般雑 誌等掲載 計0件	
その他	

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成22年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額
直接経費	105,000,000	0	41,310,000	63,690,000
間接経費	31,500,000	0	12,393,000	19,107,000
合計	136,500,000	0	53,703,000	82,797,000

2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を 除く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度 執行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額
直接経費	0	41,310,000	0	41,310,000	397,341	40,912,659
間接経費	0	12,393,000	0	12,393,000	150,000	12,243,000
合計	0	53,703,000	0	53,703,000	547,341	53,155,659

3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	397,341	実験動物、実験試薬等
旅費	0	
謝金・人件費等	0	
その他	0	
直接経費計	397,341	
間接経費計	150,000	
合計	547,341	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		